

NEWS

常時開放はできません!

河口堰



最近、芦田川の水質改善のため、「八田原ダムが完成し、もう河口堰の役目は終わったのだから常時開放したら」という意見があります。

河口堰の役目は終わった?

福山市は、1960年代から重工業都市として発展を遂げてきました。人口は17万人(1965年)から41万人に増加し、製造品出荷額も1兆3,600億円余り(2000年)と当時の20倍に伸びています。その原動力の一つとなったのが、水道用水・工業用水です。(図1参照)

芦田川流域は、1年の降雨量が1,200mm程度と全国平均の約3分の2しかありません。そこで、増加する都市の水需要に対応するため、芦田川河口堰や八田原ダムなど芦田川のあらゆる水源開発を行い、水源の面ではようやく安定した給水ができるようになりました。

福山市の上水道は90%以上、工業用水

図1 上水道・工業用水道と製造品出荷額の推移

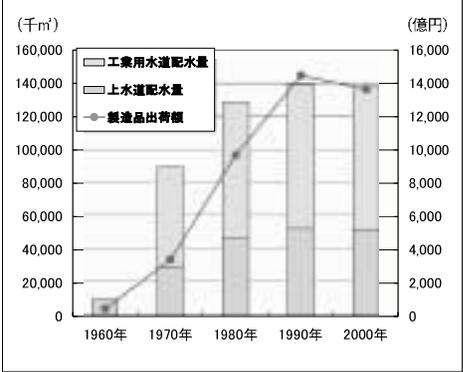
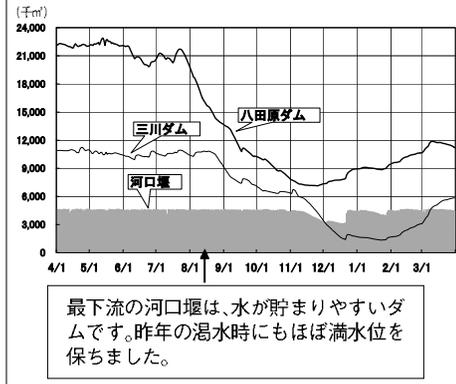


図2 ダム貯水量(2002年度)



道は100%を芦田川に依存しています。そのうち河口堰を水源とする工業用水道は、市内23カ所の工場などへ日量8万3千m³を給水しています。

また、昨年の渇水時には、三川・八田原ダムの貯水量が大幅に低下する中、河口堰からの代替給水により市民生活や産業活動への深刻な影響を回避することができました。(図2参照)

河口堰は、今も産業を支える基盤施設としての役割を果たしています。

河口堰を常時開放したら?

①工業用水の水源としての機能を果たせなくなり、23事業所への給水ができなくなります。

②上流の出原浄水場の井戸に海水が入り、取水できなくなります。また、芦田川にこれ以上新たな水源を求めることはできません。

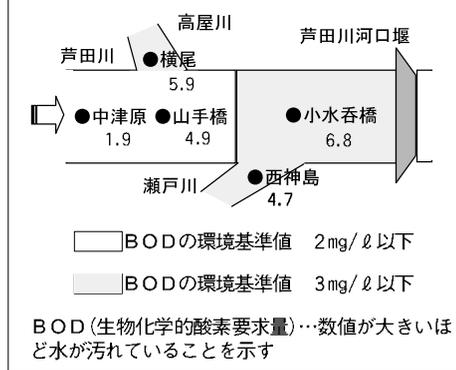
河口堰は本市の工業用水道事業にとって、今後も欠くことのできない水源の一つであり、常時開放することはできません。

水質汚濁の原因は河口堰?

芦田川は、流域に多くの人や産業が集まっているため、生活雑排水などの流入が多くなり、水質悪化が進んできました。特に市街地を流れる支川の高屋川や瀬戸川の汚濁が顕著で、結果的に河口堰の汚濁が進んでいます。

河川の汚濁を表す指標として環境基準値が定められています。中津原地点は基準値をクリアしていますが、支川が合流

図3 芦田川下流の水質状況(2002年)



する山手橋より下流では大幅に超えています。

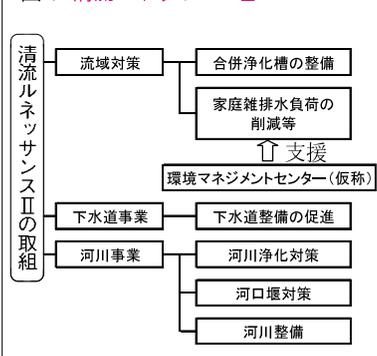
このため、河口堰を開放しても水質問題の根本的な解決にはなりません。(図3参照)

かけがえない芦田川を未来へ...

水質改善のため「清流ルネッサンスII」計画に基づき、住民参加による家庭雑排水負荷の削減や身近な水路の浄化、下水道整備の促進など、国や自治体、地域住民などが協力してさまざまな取り組みを行っています。(図4参照)

また、河口堰の部分開放も引き続き実施していく予定です。

図4 清流ルネッサンスII



このような河川を浄化する取り組みによって、水質は徐々に改善されていますが、最も大切なことは川を汚さないことです。河川の汚濁の7割以上が家庭からの生活雑排水です。一人ひとりの水を守る意識と積極的な取り組みが大切です。

問い合わせ先 / 水道局総務課 (☎928・1500)